

(4) 事業による波及効果

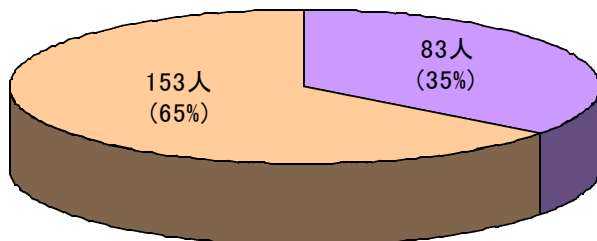
①雇用機会の創出

本事業を契機に設立された農業法人においては、236人の雇用が創出されており、その内訳についてみると常時雇用が83人、パート雇用が153人となっている。このうちパートの延べ雇用日数は12,686日となっている。

また、都市農村交流に係る拠点施設として宿泊施設やハム加工施設が整備され、これに伴う雇用も創出されている

このように、本事業を契機として受益地での農業法人等による雇用機会の創出が図られている。

農業法人における雇用状況



H18雇用人数 236人

■ 常時雇用 ■ パート雇用

区分		雇用人数 (人)	年間延べ 雇用日数 (日)
農業法人	常時	83	21,580
	パート	153	12,686
計		236	34,266

注) 雇用人数を把握できた農業法人(18法人)について整理

出典：東北農政局調べ

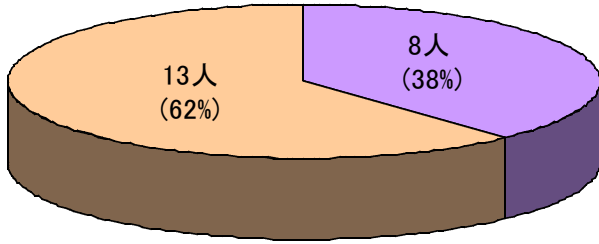


りんごの直売施設



りんごの葉取（着色）作業の様子

宿泊施設及びハム加工施設における雇用状況



H18雇用人数 21人

■常時雇用 □パート雇用

区分		雇用人数 (人)	年間延べ 雇用日数
宿泊施設 ハム加工施設	常時	8	2,080
	パート	13	2,750
計		21	4,830

注) 雇用人数を把握できた宿泊施設及びハム加工施設(2事業体)について整理

出典：東北農政局調べ



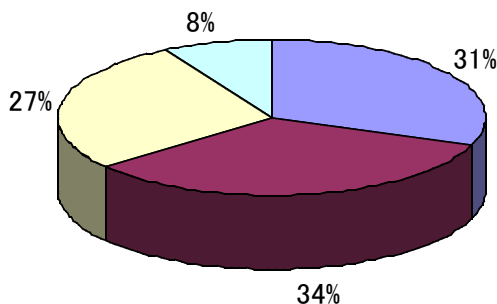
宿泊施設



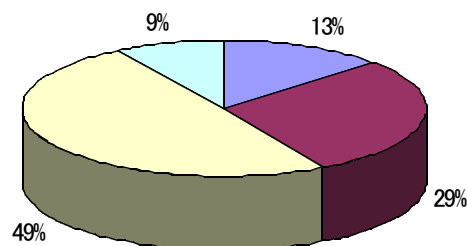
ハム加工施設

事後評価アンケート調査においても、農家女性の6割以上、非農家の4割以上が「直売所や加工用施設等による地域の働く場の創出」について「増えた」または「やや増えた」と回答している。

「直売所や加工用施設等による地域の働く場の創出について」に関する回答結果



注) 農家女性84人による回答結果



注) 非農家86人による回答結果

凡例

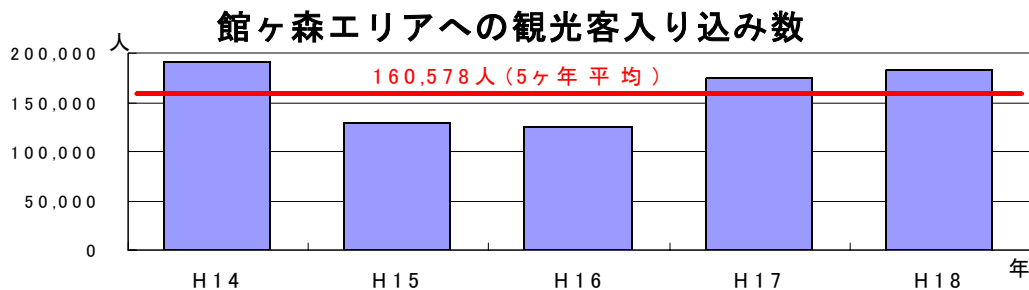
■ 増えた
■ やや増えた
□ あまり増えていない
□ まったく増えていない

出典：事後評価アンケート調査結果

②都市と農村の交流

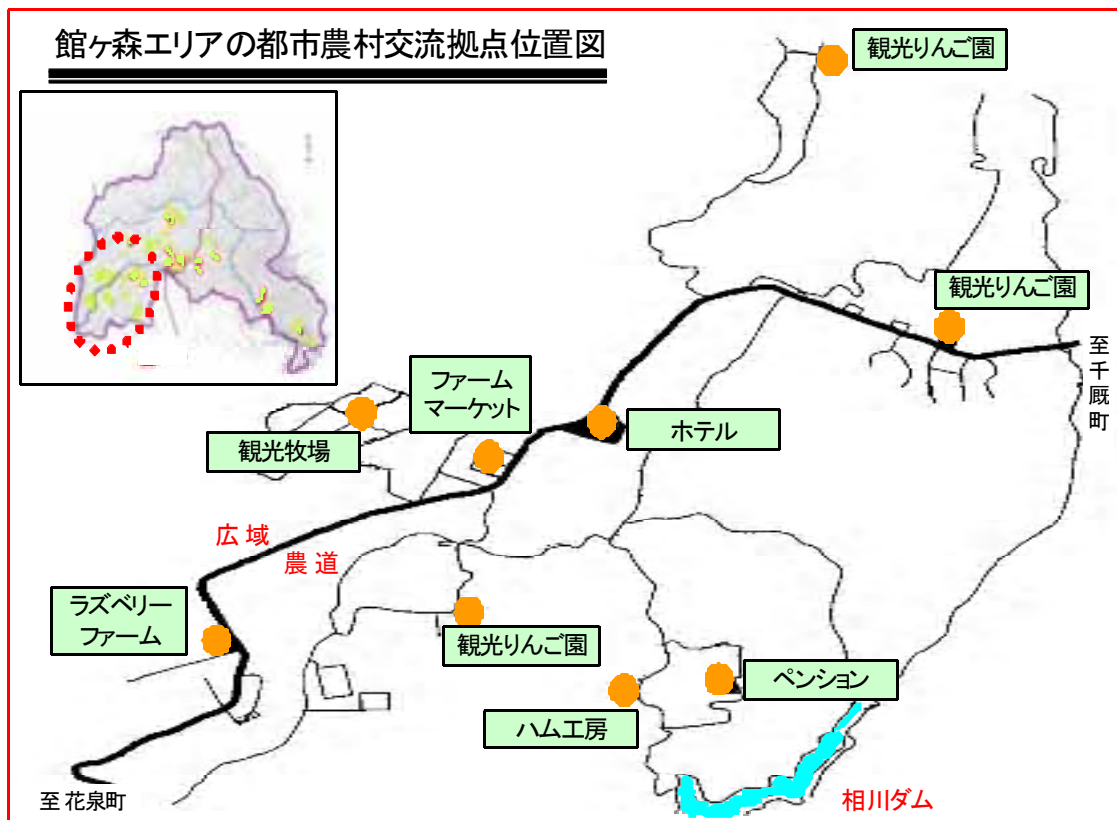
受益地においては、事業を契機として、ハーブ、有機栽培小麦、ピーマン、小松菜、ホウレンソウ等の野菜栽培、放し飼いによる鶏飼育等、多様な農畜産物の生産や農畜産物加工品の製造・販売に取り組まれている。

また、造成された農地を活用して、消費者の「買う」、「食べる」、「体験する」、「見学する」などのニーズに応えるグリーンツーリズムを推進し、年間16万人（H14～H18の平均）以上の誘客を擁している。



注) 館ヶ森エリアとは、国営事業で造成した農地の一部を活用した都市と農村の交流を推進するためのエリアで、観光りんご園などの誘客施設により形成

出典：東北農政局調べ



さらに、産地直売所の設置や独自ブランドによる農作物の販売、りんごの木のオーナー制の導入、りんご狩りなど、様々な取組がみられ、都市と農村の交流を通じて、地域農業の振興や地域活性化に大きく貢献している。



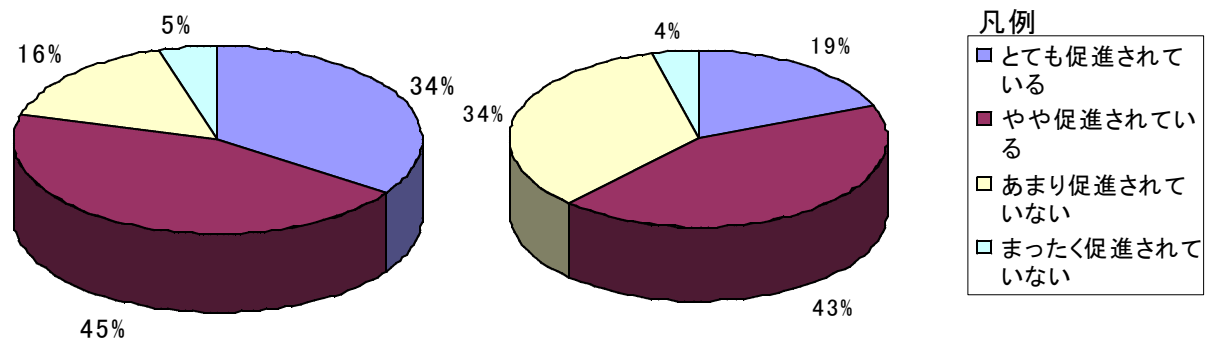
案内用のぼり旗



りんご狩りの様子

事後評価アンケート調査においても、受益者の7割以上、非農家の6割以上が「観光農園等による都市と農村の交流」について「とても促進されている」または「やや促進されている」と回答している。

「観光農園等による都市と農村の交流について」 に関する回答結果



注) 受益者87人による回答結果

注) 非農家80人による回答結果

出典：事後評価アンケート調査結果